J-7

染色業における河川との係わりの変遷に関する研究

A study on the changes of the relationship with the river in staining workshop

○楠瀬大志[1]，畔柳昭雄[2]，菅原遼[3]
*Taishi Kusunose[1], Akio Kuroyanagi[2], Ryo Sugahara[3]

Abstract: The historical transition of staining in Shinjuku was the distribution of staining workshop is currently located. The results of the study, in search of abundant water in the soft studio is concentrated along the Kanda River in the Taisho period, it became clear that have been handed down long at that location, even now that I can no longer be the use of the river.

1.　はじめに

江戸時代，江戸（東京）には数多くの水路が存在し，水辺は文化や経済，そして生活の中心として位置づけられていた．しかし，現在では治水上の必要性や水質の悪化などにより，東京のほぼ全河川が直立護岸となり，地域との係わりは極めて希薄なものとなっている．河川と係わりの深い産業である染色業もまた，地域と河川との関係の変化によって大きな影響を受けてきた．本研究では，染色業と河川との係わりに着目し，河川と係わるまちづくりのあり方を検討する．

本稿では，河川を介した産業立地の繁栄とその後の衰退の過程を把握するとともに，現在立地している染色工房の分布と河川との係わりを捉える．

2.　研究概要

本稿では，かつて染色業の三大産地のひとつとして有名であった東京・新宿区を対象地とする．区内の神田川流域では地場産業である染色業が今も脈々と受け継がれており，代表的な染色技法として，東京染小紋や東京手描友禅がある．

分析に際してはまず，文献調査から新宿区における染色業の歴史的変遷を捉えたのち,「新宿区染色協議会」に現在加盟している工房の分布とヒアリング調査から，現在の染色工房と河川との係わりを捉える．

3.　新宿区における染色業と神田川流域との係わり

3.1 江戸・明治・大正時代

神田川は江戸時代，上流部は上水道として，下流部は舟運のためにそれぞれ整備され，庶民にとって重要な河川であった．当時の染色文化は，藍染の職人や染物商が集まった「紺屋町」が全国各地にできており，その中でも江戸・神田の紺屋町は江戸染色の中心地であった．神田川流域の神田から隅田川周辺の浅草にかけて工房が拡がっていたとされ，東京染小紋や東京手描友禅は全国的に有名であった．

Table1.　The number of stained-related workshop

業種	昭和26年	昭和29年	昭和32年	昭和35年	昭和38年	昭和41年
染色整理業(軒)	－	49	84	111	102	110
洗張・染物業(軒)	－	－	119	94	150	108

明治時代に入ると「水元」と呼ばれる，河川の流れを利用して余分な糊や染料を洗い流す作業が一般化したことを背景に，神田川下流域に位置する旧小石川区に工房が集中した．

大正期からは，さらに河川の清水と安価な土地を求めて上流へと拡がり，神田川と妙正寺川の合流点である落合周辺に集中した．

3.2　昭和時代

昭和時代において，新宿区内に立地する染色関連工房の軒数をTable1に示す．これを見ると，38年をピークに工房の軒数が最多となっていることが分かる．高度経済成長による生活水準の向上により，高級衣服である小紋染，友禅染の需要が高まったことが背景にある．しかし，翌年の39年に行われた東京オリンピックを契機に，河川環境に対する評価が厳しくなり，46年に「水質汚濁防止法」が施行されたことにより，神田川を利用した水元が禁止された．その後，神田川流域における染色業は徐々に衰退していった．40年代後半には，新宿区内の染色関連業者による「新宿区染色協議会」が結成された．

3.3　現在

河川を利用した水元が行われなくなった今日では，水道水を使用し，機械による人工的な水流で洗い落すことや，大きな桶に水を溜めて洗うことによって余分な染料を落としている．

新宿区染色協議会では，業種を超えて相互の情報交換を図るとともに，業種別団体が共同して新商品の開発・研究，作品の発表会や展示即売会を開催している．また，河川で行われていた水元の風景を懐かしむ声が周辺地域から寄せられことを背景に，神田川にて水元を再現するイベントを年に数回実施している．

1：日大理工・学部・海建　Undergraduate School, Nihon-U.
2：日大理工・教員・海建　Prof, CST , Nihon-U., Dr.Eng.
3：日大理工・教員・海建　Associate Prof, CST, Nihon-U.

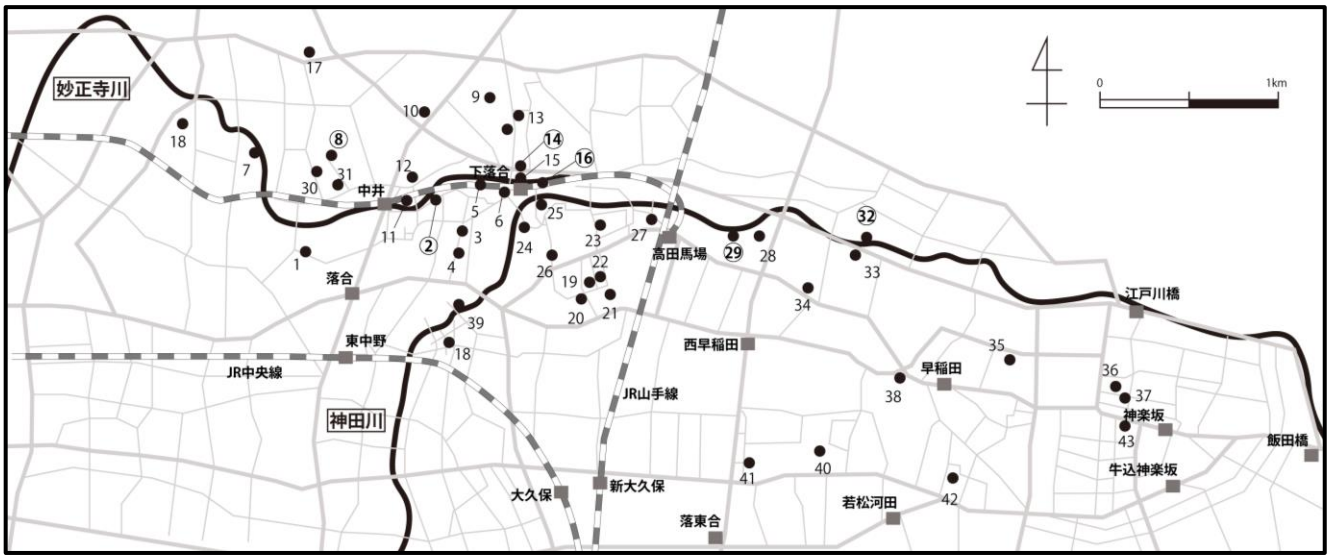

Figure2.　Distribution of staining workshop in Shinjuku　※番号は Table2 の工房番号と対応

4.　染色工房の分布と河川との係わり

現在「新宿染色協議会」のウェブサイトに掲載されている協議会加盟工房一覧のうち，ヒアリング調査によりすでに廃業・移転が確認できたものを除外した43軒の詳細をTable2，新宿区内の神田川流域における各工房の立地的分布をFigure2に示す．設立年とは，現在立地している場所で開業した年度を示し，ヒアリング調査により25軒を把握した．各工房の河川からの距離は，工房を中心とした同心円状に河川が接するときの最短距離とした．

これらを見ると，現在においても落合・高田馬場に工房が集中していることがわかる．さらに，この地域では，最盛期である昭和38年以前に設立されたものが13軒確認できた．

また，東京染小紋の工房は，河川から100m圏内に全て立地していることが明らかとなった．ヒアリング調査によると，小紋染は他の染色技法よりも多くの染料を使用するため，水元に多くの時間をかけていたという．そのため，清涼な河川の付近に立地することは重要なことであったと考えられる．

5.　おわりに

本稿では，新宿区における染色業の歴史的変遷と，現在立地している染色工房の分布を把握した．研究の結果，大正期に清涼で豊富な水を求めて神田川沿いに工房が集中し，河川の利用ができなくなってしまった現在でもその場所で長く受け継がれていることが明らかとなった．今後は各業種における河川利用の歴史的変遷を捉え，河川とまちの係わりの変化についてさらに考究していきたいと考える．

Table2. The list of staining workshop in Shinjuku

工房番号	所在地	業種	設立年	河川からの距離
1	新宿区上落合3丁目	東京手描友禅	–	150m
2	新宿区上落合2丁目	東京染小紋	大正9年	33m
3	新宿区上落合1丁目	湯のし	–	283m
4	新宿区上落合1丁目	東京無地染	昭和5年	66m
5	新宿区上落合1丁目	東京手描友禅	昭和39年	410m
6	新宿区上落合1丁目	江戸刺繍	–	32m
7	新宿区中落合4丁目	東京無地染	–	325m
8	新宿区中落合4丁目	東京染小紋	昭和5年	42m
9	新宿区中落合2丁目	東京手描友禅	昭和37年	390m
10	新宿区中落合2丁目	染色補正	昭和48年	468m
11	新宿区中落合1丁目	東京手描友禅	昭和28年	130m
12	新宿区中落合1丁目	染色補正	–	71m
13	新宿区下落合4丁目	東京手描友禅	昭和39年	380m
14	新宿区下落合4丁目	東京染小紋	昭和42年	86m
15	新宿区下落合1丁目	洗張	昭和47年	7m
16	新宿区下落合1丁目	東京染小紋	昭和24年	6m
17	新宿区西落合3丁目	東京手描友禅	昭和60年	600m
18	新宿区西落合2丁目	東京手描友禅	–	130m
19	新宿区高田馬場4丁目	東京手描友禅	昭和49年	520m
20	新宿区高田馬場4丁目	引染	–	425m
21	新宿区高田馬場4丁目	東京手描友禅	昭和9年	484m
22	新宿区高田馬場4丁目	染色補正	昭和50年	381m
23	新宿区高田馬場3丁目	湯のし	大正11年	46m
24	新宿区高田馬場3丁目	引染	昭和27年	15m
25	新宿区高田馬場3丁目	引染	–	208m
26	新宿区高田馬場3丁目	東京手描友禅	昭和49年	90m
27	新宿区高田馬場3丁目	東京手描友禅	昭和7年	430m
28	新宿区高田馬場2丁目	東京手描友禅	–	50m
29	新宿区高田馬場2丁目	東京染小紋	昭和27年	22m
30	新宿区中井2丁目	東京手描友禅	–	170m
31	新宿区中井2丁目	東京手描友禅	–	270m
32	新宿区西早稲田3丁目	東京染小紋	大正3年	18m
33	新宿区西早稲田3丁目	洗張	昭和47年	57m
34	新宿区西早稲田3丁目	東京手描友禅	昭和41年	289m
35	新宿区早稲田鶴巻町	手描紋章上絵	大正7年	345m
36	新宿区中里町	東京手描友禅	昭和29年	505m
37	新宿区中里町	引染	昭和26年	476m
38	新宿区馬場下町	江戸刺繍	–	670m
39	新宿区東中野5丁目	東京手描友禅	–	720m
40	新宿区戸山3丁目	東京手描友禅	–	1181m
41	新宿区戸山2丁目	東京手描友禅	–	1223m
42	新宿区原町3丁目	東京手描友禅	–	1097m
43	新宿区矢来町	東京手描友禅	–	661m

参考文献

1）星野 静衛：「江戸川流域における染色業の形成過程 －中小企業立地の一例－」,経済地理学年報,第16巻,第2号,p.24~41,1970

2）新宿区染色協議会：染の大国・新宿，http://tokyo-somemono.com/member，2016 .9